



F-REIフォーラム  
2024年2月23日  
いわき市

# F-REIの概要説明

～創造的復興の中核拠点としての役割～

福島国際研究教育機構 (F-REI)  
大和田祐二

- 設立の背景
- 現在の取り組み

- 設立の背景
- 現在の取り組み

# 東日本大震災

発生日時：2011年3月11日

震源：三陸沖

マグニチュード：9.0

最大震度： 7

被害（2023年3月時点）

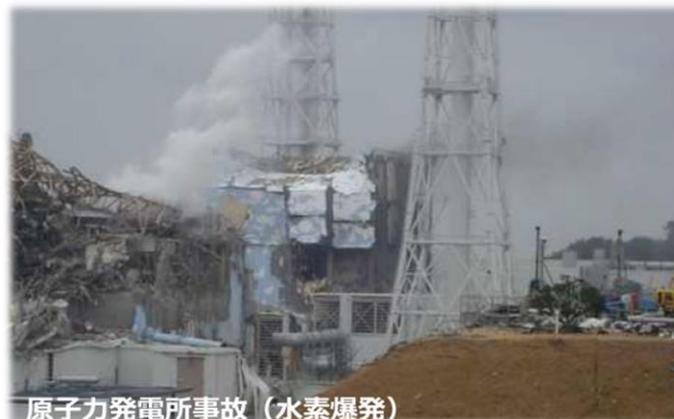
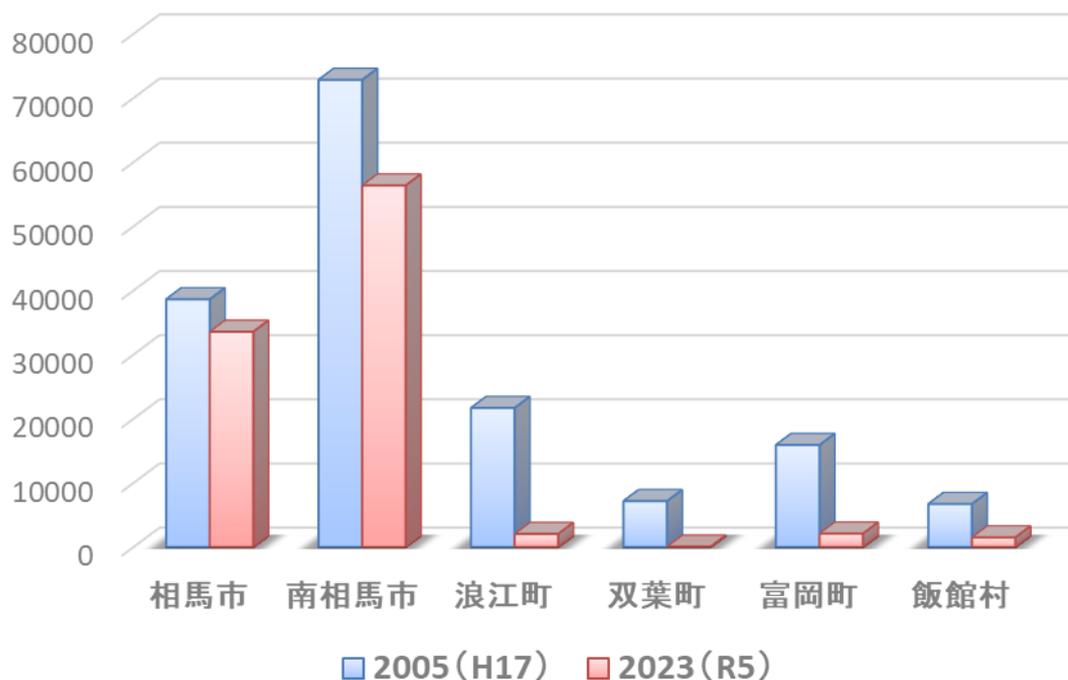
死亡：15900人

行方不明：2523人



避難者数：164,865人（2012年5月）→27,399人（2023.3）

## ・浜通り市町村の居住人口



# F-REIを福島浜通りに設立する意義

新産業創出等研究開発基本計画(令和4年8月26日内閣総理大臣決定)より

- ◆ 原子力災害の被害を最も大きく受けた福島においては、これから復興・再生が本格的に始まる時期
- ◆ 福島イノベーション・コースト構想による先行的な取組により、福島ロボットテストフィールドや福島水素エネルギー研究フィールドなどこれからのイノベーションの起点となる技術の蓄積が始まっている
- ◆ 廃炉や放射性物質による汚染などの課題を解決し、さらに強みとなる領域を開拓し、発信・普及していくことを通じて、日本そして世界の課題解決に貢献できる



F-REIが中核となっていく取組を、新しい日本を創るリーディングプロジェクトとして位置づけ国の総力を挙げて推進していく

開所式2023年4月1日



# F-REIの場所（福島県浪江町）

浪江焼きそば  
(B級グルメ大賞)



常磐もの



磐城壽 (ことぶき)



浪江町

東京電力福島第一原発（浪江町から約10 km）

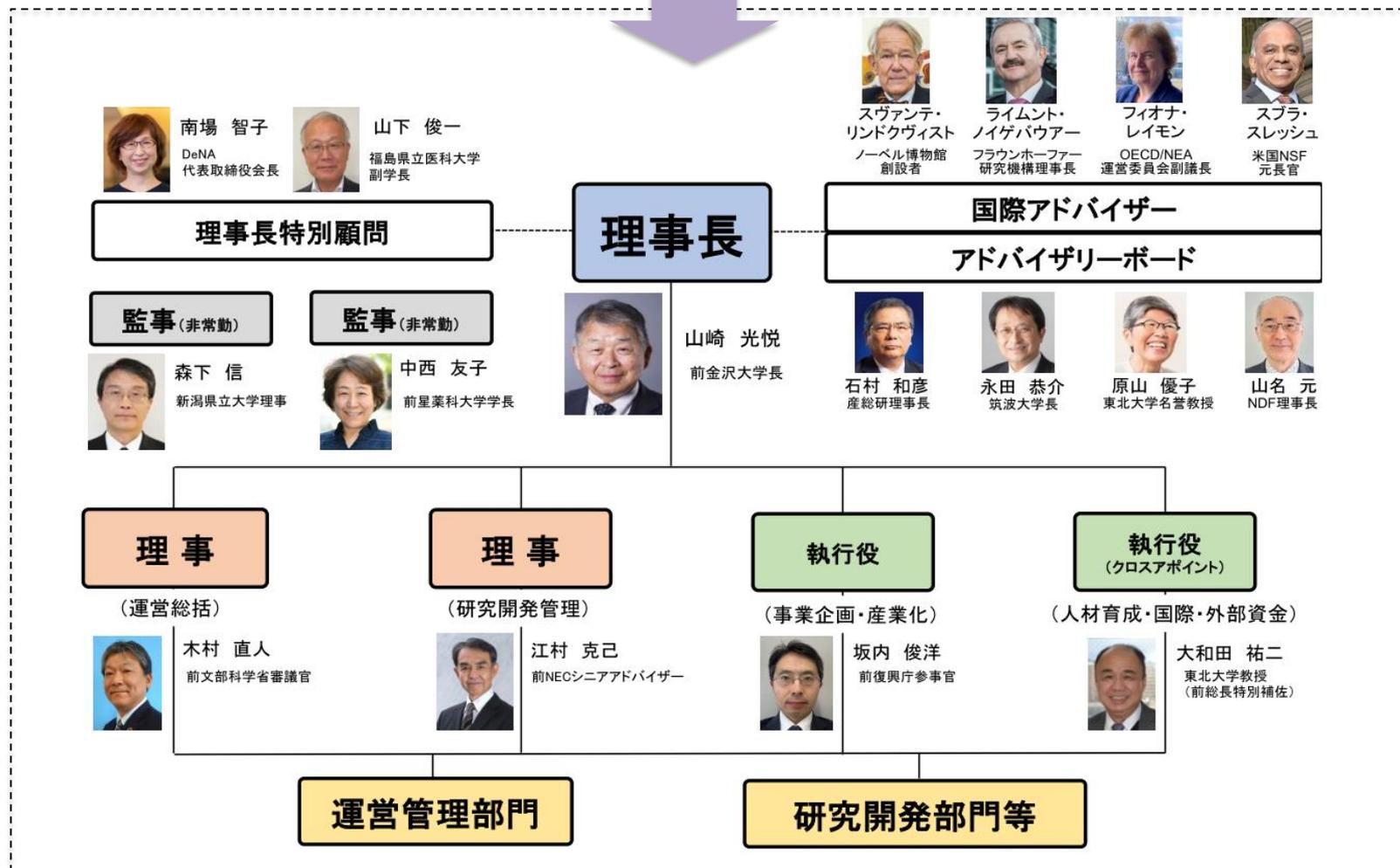


# F-REIの組織体制

内閣総理大臣  
厚生労働大臣  
経済産業大臣

文部科学大臣  
農林水産大臣  
環境大臣

主務大臣として共管（  
7年間（～R12度）の中期目標



# F-REI 4つのミッション

産学連携体制の構築  
実証フィールドの活用

**産業化**

**研究開発**

被災地 福島での優位性  
“福島ならではの”の研究

地域の未来を担う  
若者の育成

**人材育成**

好循環

**司令塔  
機能**

拠点のネットワーク  
既存施設・予算の集約

東北の復興を実現するための、  
世界に冠たる「**創造的復興の中核拠点**」を目指す。

- 設立の背景
- **現在の取り組み**

日本や世界の抱える課題、地域の現状等を勘案し、**福島**の**優位性を発揮できる5分野**を基本とした研究開発を実施する。

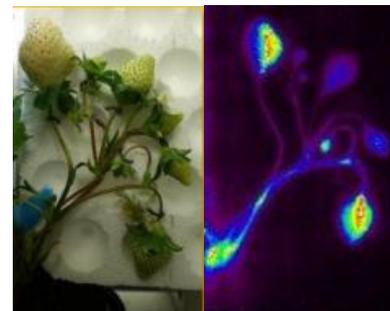
- ① ロボット
- ② 農林水産業
- ③ エネルギー
- ④ 放射線科学・医療創薬・産業利用
- ⑤ 原子力災害に関するデータ集積と発信



瓦礫内走行ロボット



CO<sub>2</sub>大量吸収等の機能を付与した  
植物生産



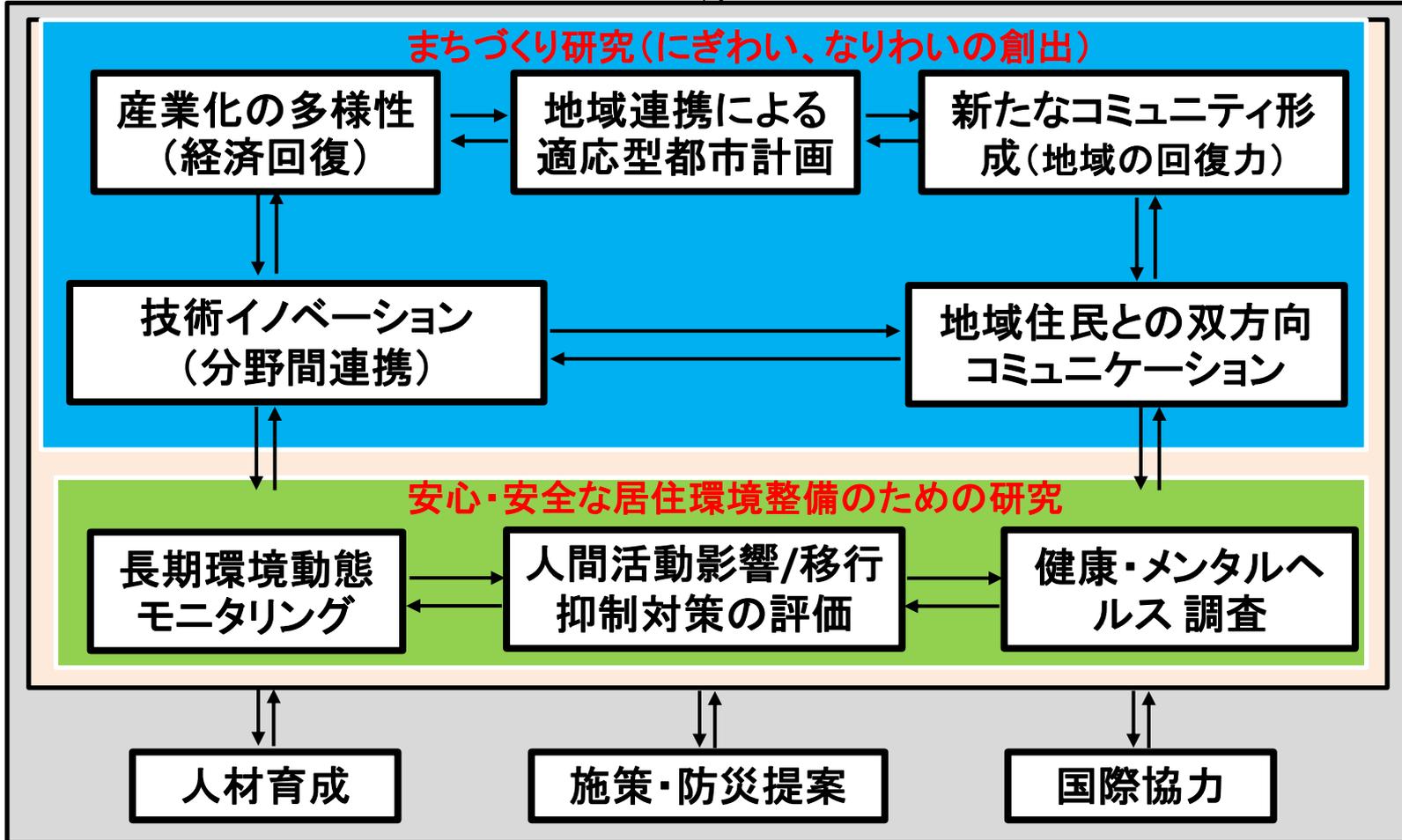
イチゴ内部の糖分 (<sup>11</sup>C 標識)  
の分布

森林の植生、土壌など放射能汚染からの環境回復にかかる環境動態計測の継続とデータベースの構築、それらの情報発信と、コミュニティの合意形成を促進する社会科学研究を推進することで、未来の活気ある街づくりに貢献する。

(【骨太の方針 基本方針5】抜粋)

- ✓ 福島浜通りの人流増加を促す  
(にぎわい，なりわい，産業の創出)
- ✓ 甚大な災害後の復興モデルを提示，次の災害に備える  
ノウハウを示す  
(防災への貢献)

被災地域のウェルビーイングの確保・向上



原子力災害に関わるデータ・知見の集積・発信

# F-REI第5分野の波及効果のイメージ

困難環境下で活用可能な  
ロボット開発

ロボットテストフィールドで実証

災害や人手不足に  
対応できない社会モデルを実現

災害に対して強い安心・安全な  
社会モデルを実現

高CO2吸収植物の開発

未活用地を圃場として  
利用した実証栽培施

ニュートラル社会  
への貢献

防災に寄与する福島復興・防災  
モデルの創出

水素の効率的貯蔵  
技術の開発

浜通り地区を実証フィールド  
として活用

福島型スマートシティ  
モデルを構築

人々(帰還者、移住者)が調和しながら  
暮らす、まちづくり

革新的なRI医薬品開発

大学・研究機関と連携  
した臨床試験の実施

健康長寿社会の実現

福島の創造的復興と発展を中長期的に支える地域の未来を担う若者世代等を対象とした人材育成の取組の一環として、福島県内の大学、高等専門学校、高等学校の学生・生徒を対象に、最先端の科学技術の魅力と可能性等に関し、F-REIトップ陣によるセミナーを行うもの。

## トップセミナーの概要

- 開催時期：令和5年5月～12月
- 講師：山崎光悦理事長ほかF-REIの役員など
- 実施内容：
  - 以下に関する講義を実施
  - 最先端の科学技術の魅力と可能性
  - 学ぶことの重要性と未来をどう築くか
  - F-REIの役割と将来像 等



## 実施対象

- 実施対象：
  - 福島県内の大学、高専、浜通り地域等の高等学校

## スケジュール

【実施済み】	
5月17日	福島大学
5月30日	会津大学
6月13日	相馬高校
6月30日	会津学鳳中学校・高校
7月 4日	会津高校
7月13日	小高産業技術高校
8月31日	安積高校
9月12日	ふたば未来学園高校
9月25・26日	福島工業高等専門学校
10月 4日	福島県立医科大学 福島高校
11月 7日	東日本国際大学
11月24日	福島大学
12月 1日	磐城高校
12月 7日	原町高校

エフレイによる地域の未来を担う若者世代の人材育成の取組の一環として、エフレイ・サイエンスラボ「放射線をさがせ」を開催。



市町村座談会は、研究開発・産業化・人材育成の取組における広域連携体制の構築を図るため、市町村や住民、企業・団体等、多様な主体と対話する場として、福島浜通り地域等の15市町村で実施するもの。

## 座談会の概要

- 市町村長のほか、地域で活躍する人材や企業等との直接対話
- 多様なシーズやニーズを把握するための現地視察や意見交換

### －座談会のプログラム（例）－

- ・市町村長ほか職員からの市町村の現況や課題等のヒアリング、意見交換
- ・農業従事者等も交えての昼食会
- ・自治体内の先進的な企業等を現地視察、意見交換（3～4か所程度）
- ・（F-REIの取組紹介を含めた）市町村内の関係者との座談会

## 次年度以降の座談会（案）

- F-REI設置の効果は浜通り地域等だけではなく、復興に取り組む地域全体に波及するものでなければならないことから、福島県全体を意識した開催方法を検討する。
- 浜通り地域等 2回程度  
市町村別ではなくテーマ別での開催を想定
- 中通り・会津地方 4回程度  
県北（福島市）、県中（郡山市）県南（白河市）、会津（会津若松市）での開催を想定

## 開催実績

令和5年6月20日	いわき市	令和5年11月 6日	飯舘村
7月 5日	南相馬市	11月17日	楡葉町
7月27日	葛尾村	12月 4日	大熊町
8月 9日	浪江町	12月19日	相馬市
8月29日	田村市	令和6年 1月18日	川俣町
9月29日	広野町	1月30日	双葉町
10月11日	富岡町		
10月17日	川内村		
10月23日	新地町		



研究開発等の機構のミッションを円滑に進めるとともに、機構設置の効果を広域的に波及させるため、これまでに福島県内の8つの機関と連携協力に関する基本合意書（MOU）や包括連携協力協定書を締結。

### 連携協力に関する基本合意書等の概要

#### ○内容

研究開発・人材育成等における連携、双方の資源を有効的に活用した協働活動等、締結先に応じた協定を締結

#### ○締結先一覧

締結日	締結先
令和5年4月1日	福島高専
令和5年4月5日	福島県立医科大学
令和5年4月15日	いわき市
令和5年5月17日	福島大学
令和5年5月29日	浪江町
令和5年5月30日	会津大学
令和5年9月1日	南相馬市
令和6年1月25日	株式会社東邦銀行

今後も福島や全国の大学、教育機関、研究機関、企業、市町村等との締結を予定



福島高専との連携協力



浪江町との連携協力



**F-REI**

福島国際研究教育機構

## 世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」として

- ・福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となることを目指します。
- ・我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献します。